

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	石原ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3丁目8-12第一生命ビル7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2026年度はまた新たに1歳児のこどもたちの発語、言葉へ興味関心、探究心を育てて行きたいと考えています。英語と日本語の【オノマトペ】にさらに注目し、オノマトペから繋がっていく言葉、表現を引き出しながら、子どもたちの探究活動を深めます。

<テーマの設定理由>

単語、二語文ほどの発語の1歳児に向け、言葉の世界を広げていくきっかけとしたい。中にはなかなか言葉、声での表現に尻込みをする子もいる。まず入り口として、週に1度に行っている英語活動で読まれている「できるかな（Can you do it!）」の、動物の動き等オノマトペで表現される絵本を使いながら、鳴き声、動物、その先に連想される表現の言葉へと興味をつなげていきたい。とても好まれている絵本で、絵を見るだけで「ぞう」「きりん」などと指をさして動きを真似することが多い。それぞれの音や動きを表現しながら「それは誰なの?」「どんな音?」など問いかけていく。また日本語だけでなく、英語での表現も知ることによって表現の幅も広げたい。その他にも、保育の日常でよく使われる物（絵やぬいぐるみ、ままごと玩具等）を環境設定の中に加え、その中で子どもたちが遊びだしたり、言葉を発したり、仕草にしてみたりという自らの意思での言動、姿を引き出し、伝えようとする意欲や言葉を知って楽しいと感じられるよう探究心を深めていきたい。

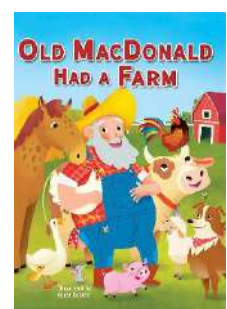
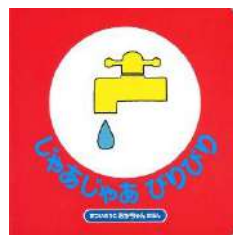
2. 活動スケジュール

【対象】 1歳児 10名 【職員】 担任 1, 2名 英語講師

【活動予定】

- ① 7月 2グループに分け交替で、環境設定をした部屋にて活動する。「できるかな（Can you do it!）」の読み聞かせをする。環境設定として、ぬいぐるみ、絵カード等を配置しておく。
- ② 8月 2グループに分け。「できるかな」「じゃあじゃあびりびり」「たまごのあかちゃん」の絵本、絵カード、ぬいぐるみを配置しておく。
- ③ 9月 同様にグループ分け。「愉快的な牧場」の歌を聞く。皆で鳴き声を真似して楽しむ。「できるかな」の歌（振り付けあり）も行う。絵本と絵本に出て来る動物のぬいぐるみ、絵カード、玩具類を配置する。
- ④ 10月 同様にグループ分け。9月と同じ「愉快的な牧場」「できるかな」の歌を皆で聞く。絵本と絵本に出て来る動物のぬいぐるみ、絵カード、玩具類を配置する。
- ⑤ 11月 グループ分けをする。絵本に出て来るオノマトペについて問いかけ。また、絵本以外の物の音について、動きの表現について問いかけながら、子どもたちが知りたい言葉や音を英語と日本語で一緒に探す。
- ⑥ 12月 室内では絵本を読み、オノマトペの音を楽しむ。戸外遊びの中でも周囲の玩具や実際の物（車や電車）など、オノマトペを探す。
- ⑦ 1月 先にぬいぐるみや絵カード、絵本を配置し、子どもたちが自由に触ったり、見る中で、オノマトペがどんな表現や遊びにつながっているのかを保育者が言葉を拾いつつ、一緒に楽しむことで知りたいこと、興味のあることを伝えようとする姿を見つけていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定



- ・絵本「じゅうじゅう」「げつようびはなにたべる」
- ・動物ぬいぐるみ（パペット）10種類
- ・動物絵カード
- ・絵本と共通の絵カード（ひこうき、じどうしゃ等）
- ・ままごと、玩具

4-①.探究活動の実践

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

英語講師が「できるかな」英語版を読み聞かせする。知っている絵本のなので、英語ではまた動きのオノマトベが違う表現になっているが、子どもたちが集まってきて興味を持って見ては、体を動かす様子があった。次に保育者が日本語のできるかなを読むと、話の内容に合わせて動物の動きを真似してみよう様子が見られた。

遊ぶコーナーの外側に、動物のパペットや絵カード、を並べておく。初めのグループ（5名）の子が移動したので、「知っているものはあるか？」と声がけすると、パペットに興味を示し、する手に取る。それぞれ「ぞう」「きりん」と喜んで手に取って、保育者に声を出しながら見せに寄ってくる。中には両手に一人占めのように持って、他の子が手を出そうとすると渡したくない様子を見せる。相手の子も使いたいと保育者に訴えるため、貸してあげたらと仲立ちをするがなかなか渡さず。一方は、それでも他のパペットや絵カードを示すと目を向ける様子があった。

動物の絵本にも興味を示し、絵を見ながら「いっしょ、いっしょ」と言ってみて見比べている子、パペットやカードを手にして、絵本の中の動物を指さして保育者や講師に示す。同じだねと声をかけると満足そうに喜ぶ。保育者（日本語）、講師（英語）が発する動物名、また動きのオノマトベをすぐ真似て繰り返し話す子もいた。保育者が動きをやってみせると真似て、保育者と一緒にやりたがる子がいた。

月齢が低く、まだ発語が少ない子はなかなか興味を持てない子もいたので、普段読み聞かせをしている「おーい、かばくん」を保育者が読んであげると、絵本を見ることには興味を示すしていた。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 【次回への問い】

ちょうど遊びの中に取り入れていた絵本だったこともあり、その内容が好きな子は積極的に関わろうとする姿が強かった印象がある。また興味の薄めの子たちも読み聞かせをしたり、初めのグループの子の様子を見ていたことから、少し時間が経ってから配置した物を見に行く姿もあった。全体的に発語はまだ多くはないため、保育者、講師とのやり取りの中で、オノマトベの音や鳴き声、動物名が繋がって楽しめるようにしていきたい。

通常の英語レッスン時は繰り返しの経験で、仕草や単語、知っている音を覚えていくが、環境としての講師の配置や物の設定の中では、自ら何に興味を示し、何を表出していくか、問いかけながら興味を促したい。また低月齢児への興味感心のポイントも探りたい。

4-②探究活動の実践

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

今回は絵本、絵カードを部屋に先に配置し、まずは講師が「できるかな」を読み聞かせをする。子どもたちは動きのオノマトペを繰り返していう子もいた。また動きを自分からやる子もいた。

動物鳴き声の絵本も置いていたところ、子どもたちはさっそく手を伸べて、様々な鳴き声ボタンを押して楽しむ。保育者は日本語の鳴き声、英語講師は英語の鳴き声と違うが、絵本から出る鳴き声をよく聞く様子がみられた。動物と合致させようとするのではなく、いろいろな鳴き声自体を集中するように聞いていた子がいた。

絵本は「できるかな」だけではなく、オノマトペが楽しめるように1歳児室に「じゅうじゅう」や「じゃあじゃあびりびり」なども置き、保育者が読んでみせる。絵カードは関連したものを部屋の中に張り出す。しかし、絵本そのものはとても楽しんで見るものの、なじみが薄いせいかあまり興味を示す様子は続かなかった。

動物パペットも置いておくと、好みのものを手にして、鳴き声を保育者に言ってもらい、子どもがそれを真似して言う様子があった。絵本に出てきていた動物はどれか問うと、すぐ取りに行ったり、保育者がオノマトペで表現すると絵本を持ってきて示したりと、それぞれの子で声に出す子、知っていることを示す子と反応がちがっていた。

まだまだ発語として出てくるものは少ないが、動物に関する興味や、絵本に描かれていることを知っていると自分から伝えようとする姿が見られている。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 【次回への問い】

「じゅうじゅう」の絵本を保育者が読んだ際に、火のついたフライパンのところで「あっち」と暑さを表現してみたところ、真似をしてすぐに「あっちちち」というやりとりを喜んでいた。「じゃあじゃあびりびり」の反応は薄かったが、室内に貼ってある絵カードを見て「おんなじ!」と反応は見せていた。

動物パペットと同じ絵カードを探したり、動物図鑑の鳴き声にも興味を示し真似して言ってみたり、音を出して同じだということを、自ら保育者に伝えようとしている姿が多く見られた。絵カードを壁に貼ったままにしたことで、それを見て絵本を見るという日常の流れにもつながった。オノマトペなどの発語は少なめだが、真似をして言う子もいた

「じゃあじゃあびりびり」は少し幼かったようにも感じるので、配置する絵本や、出て来るオノマトペに興味がわくような、設定を考えていきたい。

4-③. 探究活動の実践（英語のレッスン中に動物の鳴き声について知る。）

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

今回はオノマトペの言葉が多く出くる「愉快的まきば」の歌を英語講師に歌ってもらう。鳴き声がたくさん出てくるので、子どもたちに聞いてもらう。その中で何の動物か、どの動物の鳴き声かを保育者が問いかけていく。周囲にぬいぐるみや絵本「できるかな」「げつようびはなにたべる」「どうぶつなきごえずかん」、どうぶつ絵カードなどを配置していたため、さっそく手に取って見ていた。発語が多くなってきた子は、自分から「ぴっぴ」「もーもー」など真似る子もいたが、まだ発語が少ない子は知っている動物ぬいぐるみを手に取り、保育者に示して名前や鳴き声をいってもらおうとする。特に「どうぶつなきごえずかん」は声が出るためとても好み、鳴き声のボタンを押しては出る音を楽しんでいた。好む子が多いため、取り合いになるほどである。音を出しては保育者や講師が動物名を言葉にしてあげると、復唱して言う子もいれば、頷いてわかっている様子を見せる子もいた。保育者が「そうだね、〇〇だね」と肯定してあげると、嬉しそうにまた次の動物を手にして講師に見せたり、保育者からの問いかけ（鳴き声に合わせて）のやり取りを繰り返す。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 【次回への問い】

「できるかな」「げつようびはなにたべる」クラスでも好きな子が多かったので、英語バージョンと日本語バージョンの歌を繰り返し歌って楽しめていて良かった。出て来る動物だけでなく、他の動物にも興味を示し、ぬいぐるみやアプリケを保育者のところへ嬉しそうに持ってきていた。

何かの動物が見当たらず、探している子がいると、他の子が見つけて渡してあげたり、子ども同士の関わりにも繋がっていた。

オノマトペの音を保育者、講師の真似をして声に出す子もいるが、保育者や子ども同士共有して楽しさを感じる様子が見られた。

ただ月齢の低い子は特に、活動に興味を持てない様子も見られている。設定を考えたい。